

海老名市立柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録（案）
（令和7年度 第1回）

- 1 日時** 令和7年5月17日（土）10：00～12：00
- 2 場所** 海老名市立柏ヶ谷小学校 会議室
- 3 出席委員** 山崎久男委員、大矢和正委員、森山輝男委員、森田博明委員、増田芳夫委員、羽太勇委員、松本孝夫委員、齊藤裕子委員、鈴木佳子委員、小林麻衣委員、藤原絵里奈委員、石井友紀（校長）、高橋一子（教頭）、青山明裕（教務主任）

4 会議の内容

（1）校長挨拶

石井校長：本協議会では、本校の学校教育活動についてご意見を頂戴し、教育活動に反映していきたい。

（2）委員自己紹介（委嘱状交付）

校長が新委員へ会議前に委嘱状を交付。教務より新委員を紹介後、全委員の自己紹介。

（3）会長・副会長の確認

会長に山崎委員を確認。副会長に萩原正規委員（当日欠席）を確認。

【議事】（進行：山崎会長）

（1）学校の様子と今年度の学校経営方針について

石井校長：①主な学校行事

・運動会と音楽会の時期変更

②令和7年度学校経営方針（グランドデザイン提示）

・「あたま」・・・国語科の研究とICT教育の充実

・「こころ」・・・たて割り活動の充実

・「からだ」・・・体力向上を目指す取り組みの充実

③教職員の働き方改革と多様な働き方

・働きやすい職場づくり・・・制度の活用と人材育成

④社会に開かれた教育課程

・地域とのつながり方

⑤登下校の安全確保

・4月から個別登校開始

齋藤委員：学校応援団の取り組みとして1年生のサポートに入った。学校生活に慣れていない児童のサポートを登校から下校まで行った。朝の会で担任が読み聞かせをすると、子どもたちは楽しそうに聞いていた。休み時間にも図書室に行きたいという児童が多かった。昨年まで、図書離れが課題として挙がっていた。この、1年生への読み聞かせのような取り組みがずっと続くと、図書離れは解消されるのではないかと感じた。また、6年生が1年生に掃除の仕方

を教えたり、縦割り活動で面倒を見たり、縦のつながりが素晴らしいと思った。この、サポートする取り組みは次年度も続けていきたい。あそびっこは、参加率が高い。その中でも異学年交流がうまくいっている。

山崎会長：先生方とは違った立場で見ている方から子どもたちの様子を教えていただきたい。こういう情報を他の先生方と共有する場や機会があるのか。

高橋教頭：齋藤さんからは、その都度様子を教えていただいている。その度に、関係職員には私から伝えている。

大矢委員：ICT 教育の充実というお話があったが、一度授業を見てみたい。

青山教務：いつでもいいので見に来てほしい。

山崎会長：子どもたちの自己学習力を高めたいという話があったが、iPad を授業や家庭学習にどう生かしていくのか教えてほしい。

青山教務：まず、ご家庭で iPad が使えるか環境調査を実施している。その上で、iPad を使った専用アプリでの宿題に取り組ませている。学校で操作の仕方を指導したり練習したりしてから、宿題として出している。保護者の負担がないように心がけているつもりである。

山崎会長：保護者に iPad 持ち帰りについてのお願いなどはあるのか。

青山教務：年度初めにお便りでお願いしたり、懇談会の際にお話したりして協力を依頼している。授業中の生かし方については、まず、ノートに書いただけでは相手に伝わりきらないものが、iPad に書くと友だちと一斉に見合うことができる。また、資料の配付が簡単にできて効率よく学びが進められる。そういうメリットがあるが、ノートを使うことや鉛筆で書くことの良さもあるので、その時間の「ねらい」に沿って、授業への組込み方を工夫していく必要も感じている。

藤原委員：日頃、スペシャルサポートルームである「ぽかぽか教室」の担当をしている。ぽかぽかを利用している子どもたちが iPad を使うことによって、友だちがどのようなことを考えたり感じたりしているのか知ることができる。子どもたちはとても喜んでいる。

石井校長：iPad 使用に関して、保護者には、SNS 上に画像をあげないなど使用に関する注意をしていただくようお願いしている。

大矢委員：立川で事件があったが、学校での危機管理や緊急時の対応はどうなっているのか。

石井校長：不審者対応訓練を 28 日に行う。DVD 視聴による事前指導を行った後、実際に退避訓練を行う。同日には、警察の方を講師に招き教職員の訓練も行う。年に 1 回実施している。

青山教務：子どもたちが机をバリケードにして出入口を塞ぐ練習をしたり、職員が不審者を誘導したりする訓練である。

高橋教頭：学校にはネットランチャーと刺股（さすまた）が常備されているが、もっと性能の良いものを配置できるよう市教委でも検討中なようだ。

大矢委員：「開かれた学校」であるから、門を常に施錠するかどうか、難しい問題だ。

森田委員：監視員が不審者を発見した場合、教職員とはどのように連携しているのか知りたい。不審者が複数人だった場合や、監視員が女性だった場合を考えると、心配である。

青山教務：監視員はトランシーバーを持っていて、すぐに職員室と連絡をとれるようになっている。昇降口を離れる際には、職員室に連絡してもらうようになっている。しかし、不審者が複数だった場合は難しい。

山崎会長：不審者が発見された場合、それを知らせる暗号のような放送はあるのか。

青山教務：キーワードがあり、居場所を周知する仕組みになっている。

鈴木委員：監視員の身の安全も心配である。装備を工夫したり複数で監視したりするとよいのではないか。また、来校者に名前や目的を尋ねたりしてもよいと思う。

山崎会長：かつて大学の授業でも、自分が不審者役をやって模擬授業を行ったが、大学生でも動けなかった。しかし、立川の事件では子どもたちは逃げる事ができた。訓練が行き届いていると感じた。

森田委員：「インクルーシブな学校」について、もう少し詳しく聞きたい。

石井校長：例えば、「障がいのある子」や「外国籍の子」のように一括りにするのではなく、「〇〇さんが抱えている課題」というように、子どもたち一人ひとりの個性や良さ、苦手さなどに向き合い、大切にしてほしいという願いをもち、スローガンのように掲げている。子どもたちにも、「みんな柏小の仲間」という感覚をもち、互いに名前を呼べるような間柄になってもらいたいという想いで縦割り活動を進めている。先日、教職員は校内研究について議論を交わした。それによって、「多様な人の多様な考えが、よりよい集団をつくることを実感する」事ができた。このように実感できた経験を、指導に生かしてほしい。

森田委員：そういうプロセスがあって、縦割りグループの活動につながっていったのだなということがよく分かった。

松本委員：子どもたちの実態として、「学力は高くない」と資料に示されているが、詳しく説明してほしい。

青山教務：これは毎年全国の6年生が実施している「全国学力・学習状況調査」の結果に基づいている。県や市の平均と比べて「高くはない」状況である。低くもなくほぼ平均値である。改善する手立てとして、国語科を全教職員で研究していくことや言葉を大切にする指導を進めている。

松本委員：「社会に開かれた教育課程」の中の「生き方学習」についてだが、子どもたちに「勉強しなさい」と言っても、なぜ勉強するのか理解できなければいけないと思う。様々な職業の方に話をしてもらい、刺激を与えるとよいと思う。地域の人材をもっと活用するとよい。私が、講師として話をした後、子どもたちからお礼の手紙をいただいて嬉しかった。このことを別の会でも紹介したことがある。

山崎会長：地域の人たちに恩返しのできる子どもを育てると資料に載っていた。「お礼の手紙」も地域の人たちへの恩返しの仕方の一つとなる。

森田委員：働き方改革について、色々と策を講じているとは思いますが、長時間労働は改善できないのか。

石井校長：今年度はだいぶ改善されている。仕事量に偏りが出ないように分担を見直したり、会議の在り方を見直したりしている。しかし、休日出勤している職員もまだいるので、さらなる精選を図りたい。

森田委員：働き方改革はなじみのある言葉だが、過労死などの話を聞くと楽観できない。

何かできることは協力したい。

松本委員：市では、改革のためのプログラムなどを作っているのか。チャット GTP とかが普及しているので、短縮できる業務がある。そうすることで本来の業務に時間をかけられる。

石井校長：提出書類が簡略化してきたり、データを送信したりと変わってきている。会議もオンラインでの実施が増えている。

松本委員：チャット GTP とかのやり方を市が教えてくれれば、業務が楽になる。

山崎会長：先生方が家に仕事を持ち帰っている場合もある。早く帰れば改革が成功しているというわけでもない。教育内容の整理・統合が必要だ。例えば「福祉教育」とか「環境教育」とか「～教育」など、いろいろ求められているが、日頃行っている教育と共通する指導内容は何なのかを精査していくことがだいじだ。

森田委員：『「こどもたちの登校見守りボランティア」の募集について』（*本会議に資料提供）を自治会で配付した。反響や問い合わせがある。他の自治会にも広がっていけばいいと思っている。

石井校長：こういう呼びかけや毎朝横断歩道で見守りをしてくださったりしていることは大変ありがたい。

鈴木委員：登校班がなくなって、有志の方が見守りをしているということだが、様子が知りたい。

高橋教頭：立哨員さんがいる所と、天野石材店の所、こっこ保育園の所に、ボランティアで立ってくださっている。

鈴木委員：立哨や見守りについて、在校生の保護者に呼びかけているのか。

青山教務：昨年度末と今年度初めに LINE で呼びかけている。

森山委員：柏ヶ谷地区の子どもの数は何人くらいいるのか。最近は子どもの数も減っているが、自治会長と相談して呼びかけてもいいかなと思う。

石井校長：学校脇の高層マンションには多くの子どもたちが住んでいる。相鉄ローゼン側には少ない。郵便局方向にもけっこう多い。天野石材店方面には全児童の4分の1ほどだ。

森山委員：学校より南の方は歩道があるが、交通量が多いので見守りは必要だと思う。

増田委員：PTA の有志の方も見守りをしているとのことだったが、充足しているのか。どこの地域が不足しているのか分かれば、検討したい。

小林委員：サポーター制度がまだ整っていないので、数は十分ではない。

増田委員：PTA と地域がうまく調整しながら動かしたらよい。

山崎会長：個別登校になって、高学年は低学年の面倒を見る必要がなくなった。それによって、子どもたちの様子はどう変わったのか知りたい。

高橋教頭：全員ではないが、1年生を見かけると進んで声をかけて一緒に登校している6年生の姿がある。

山崎会長：子どもたち相互が声をかけあうという指導は、今後も必要だ。

藤原委員：通学路に時計があると、安心して登校できると思う。

高橋教頭：必要に応じて、腕時計をしてきてもよいことになっている。

森田委員：地域と関わる機会を増やすとあるが、自治会に入っていない家庭の子どもでもいいので、地域の行事へ参加をしたらどうだろうか。

山崎会長：学校からも、地域ではこんなことをやっているよという情報を紹介してもらえればよい。

（２）その他 なし

５ 事務連絡

- ①今後の日程確認 第２回協議会…R7.10.10（金）第３回協議会…R8.2.11（水・祝）
- ②海老名市コミュニティ・スクール研修会兼中学校区学校運営協議会…R 6.10.6（月）
開催予定（参加希望者は７月１４日までに学校に連絡）
- ③メールアドレス登録のお願い